

平成29年3月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成29年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださるようお願いいたします。

日本最大級の朝市「館鼻岸壁朝市」が、今年は、3月12日に開幕します。毎週日曜日、日の出から始まる朝市は、岸壁に約300のお店が立ち並び、毎週1万人を超える来場者で賑わいます。

その規模はもちろん、新鮮で格安のお野菜果物、新鮮な魚介類、お惣菜、コーヒーやイトインコーナー、刃物や骨董品など豊富な品揃えも圧巻です。

八戸へお越しの際には、少し早起きをして朝市へお立ち寄りください。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973/FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 3月号 レポート

平成29年2月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	湊町の市営魚菜小売市場 八戸市が建て替え検討
(2)	八戸市民病院 救命センター体制が東北以北で1位
(3)	「新大橋」老朽化により架け替えへ
(4)	八戸市立市民病院 緩和ケア病棟開設控え職員定数100人増へ
(5)	八戸市新美術館 設計案応募表明に異例の160者
(6)	小林眞氏 11月の八戸市長選に4選出馬表明

【産業】

記事	概要
(7)	朝日インテック(名古屋) 八戸に加工技術開発拠点開設へ
(8)	青森県内企業で初 青銀がイクボス宣言

【地域】

記事	概要
(9)	八戸グランドホテル 災害発生時の通信手段にアマチュア無線局を開局
(10)	豪華寝台列車「四季島」8月16日限定で八戸、久慈巡る新コース設定
(11)	食育イベント「こどもレストラン」開催 ～ブイヤベースの上品な味に歓声～
(12)	2015年青森県 がん死亡率が全国最悪
(13)	冬の青森紹介 タイのTV局が青森県内をロケ
(14)	八戸-遠野170キロウォーク 参加者募集
(15)	八戸工大 海洋学副コース新設へ
(16)	飲酒運転根絶協議会発足 全市民へ意識浸透図る
(17)	柿の里・是川地区PRへ 干し柿「☆MYOTAN(ほしみょうたん)」発売

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	八戸工業高生5人が短歌全国大会で入賞!
(19)	青森県初 八戸市公会堂で本格的な雅楽公演開催
(20)	世界レベルの電子オルガンコンクール 川上さん(ウルスラ高2年)が3位!
(21)	県南地方に春を呼ぶ「八戸えんぶり」開催

記事	概要
(1)	<p>湊町の市営魚菜小売市場 八戸市が建て替え検討</p> <p>八戸市が湊町の市営魚菜小売市場の建て替えを中心に、J R 陸奥湊駅前地区の再開発を検討していることが分かった。地区の地権者による再開発準備組合の理事会で、八戸市は構想案を説明した。構想案は、県道を挟んで駅の北側にある市場は現在と同じ規模で建て替える。東側の隣接地には、民間主導の商業・観光施設を市場と一体的に整備。鮮魚などの小売店に加え、宿泊施設や周辺市町村のアンテナショップなども想定し、連絡通路で駅と直結させる。小林眞市長は「市議会や地権者の合意を得た上で、まずは湊地区全体の計画をきちんと立てたい。」との考えを示しており、2021年度のオープンを目標としている。</p>
(2)	<p>八戸市民病院 救命センター体制が東北以北で1位</p> <p>救命救急センターの診療体制の充実度をみる厚生労働省の2016年度の充実段階評価（2015年度実績）で、八戸市民病院が101点満点中92点となり、東北・北海道の32施設の中で1位になった。東北・北海道のトップは4年連続。同病院の担当者は「救急医の数や受け入れ患者の多さが高い評価につながっている」と分析している。青森県関係では、県立中央病院（青森市）が70点（東北・北海道15位）、弘前大学医学部付属病院が59点（同27位）となった。</p>
(3)	<p>「新大橋」老朽化により架け替えへ</p> <p>八戸市沼館地区と八太郎地区を結ぶ「新大橋」の老朽化対策を検討していた市は、現在の橋を撤去した後、全体の幅員が約1.6倍となる新しい橋を現在地に建設する方針を明らかにした。現在の橋は建設から約60年が経過しているほか、幅員9メートルのうち車道両脇の歩道は幅1メートルと狭く通行の支障となっている。2018年度に現在の橋の撤去に着手し、2027年度から新しい橋の利用を開始する予定。</p>
(4)	<p>八戸市立市民病院 緩和ケア病棟開設控え職員定数100人増へ</p> <p>八戸市立市民病院は、2017年度から病院職員の定数を100人増やし、1020人とすることを発表した。増員を見込むのは医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師ら。緩和ケア病棟が2019年度に運用を開始することなどを踏まえ、医療体制の充実を図る狙い。同病院は「引き続き研修の受け入れや広報を強化するなどし、人材を確保していきたい」としている。</p>
(5)	<p>八戸市新美術館 設計案応募表明に異例の160者</p> <p>八戸市が2020年度の開館を目指す新美術館について、設計者を選ぶ公募型プロポーザル（企画提案）に青森県内外の160者が参加を表明していたことが分かった。市の公共施設としては異例の多さで、関心の高さがうかがえる数字となった。26日に「はっち」で、1次審査で絞られた5者による公開プレゼンテーションが開催され、その後非公開の審査委員会を経て、最優秀1者、優秀1者を選考。3月上旬に結果を公表する。</p>
(6)	<p>小林眞氏 11月の八戸市長選に4選出馬表明</p> <p>八戸市の小林眞市長は、11月16日任期満了の八戸市長選に4選を目指し出馬する考えを表明した。市議会一般質問での質問に答え「引き続き市政を担い、郷土八戸の限りない発展と市民の幸福のため一身をささげたい」と述べた。市長選への出馬表明は小林氏が初めてとなる。</p>

【産業】

記事	概要
(7)	<p>朝日インテック（名古屋） 八戸に加工技術開発拠点開設へ</p> <p>国内外で医療機器を製造、販売する「朝日インテック」（名古屋市）は2月2日、八戸北インター工業団地内に「東北R&Dセンター」を開設することを明らかにした。医療機器の製品化に必要な金型製作や射出成形加工などを手掛け、精密加工技術の中核的な開発拠点とする。8月に着工、2018年7月の稼働を目指す。同日、青森県や市と立地協定を締結した。医療分野を主要事業とする企業の誘致は市内で初めてとなる。</p>
(8)	<p>青森県内企業で初 青銀がイクボス宣言</p> <p>青森銀行は3日、部下の仕事と家庭の両立を支援しながら業績も上げる「イクボス」の育成を目指す「イクボス宣言」を行った。青森県内では県警や平川市がすでに宣言しているが、同行によると県内企業では初めてという。宣言後、成田晋頭取は「今の時代、イクボスという考え方は非常に重要。宣言した会社は社員の満足度、健康度、愛社精神が高まり、組織の生産向上につながっている。当行の職員も充実した仕事、家庭生活、社会貢献活動をさらに行ってほしい」と期待した。</p>

【地域】

記事	概要
(9)	<p>八戸グランドホテル 災害発生時の通信手段にアマチュア無線局を開局</p> <p>八戸市番町の八戸グランドホテルは、大規模災害時に活用できるアマチュア無線局を昨年12月に開局した。中学時代から50年以上の趣味で、第1級アマチュア無線技士免許を取得している同社の笹本進代表が、昨年5月に東北総合通信局から無線局免許状の交付を受け、無線機やアンテナを設置した。非常用電源やバッテリーも備え、停電時でも対応できるという。大規模災害時の運用を想定しており、笹本代表は「国内に65万局があり、国外との通信も可能である。非常時の通信手段として、いざというときに役立てたい」と意義を強調する。</p>
(10)	<p>豪華寝台列車「四季島」 8月16日限定で八戸、久慈巡る新コース設定</p> <p>JR東日本は、5月から運行を開始する豪華寝台列車「トランスイット四季島」の新たな運行コースを発表した。8月16日の1日限定で「東日本の旬・夏の2泊3日コース」として、八戸、久慈両市を巡るコースを設定。列車は16日午前9時半に上野駅を出発。17日朝に八戸駅に到着し、列車を降りて種差海岸で朝食を取る。市内を観光後、鮫駅から東北エモーションに乗車して同日午後、久慈駅に到着。久慈市内を観光して再び八戸駅に戻る。ほかに鳴子温泉（宮城県）や中尊寺金色堂（岩手県平泉町）なども巡る。料金は1人70～90万円。チケットの販売時期は決まり次第、同社ホームページなどで公開する。</p>
(11)	<p>食育イベント「こどもレストラン」開催 ～ブイヤベースの上品な味に歓声～</p> <p>八戸市のかもめ幼稚園と姉妹園のすみれ保育園は16日、八戸プラザアーバンホールで、地魚について学びながら八戸ブイヤベースを味わう食育イベント「こどもレストラン～キッズブイヤベース」を開いた。幼い頃から八戸の地魚を知り、食べて親しむことで食の楽しさを伝えようと、八戸ハマリレーションプロジェクトと八戸プラザホテルの協力を得て4年ほど前から実施している。参加した子どもたちはホテルのシェフが魚をさばく様子に見入り、ブイヤベースの上品な味に歓声を上げた。</p>

(12)	<p>2015年青森県 がん死亡率が全国最悪</p> <p>がん対策の基礎データとなる「75歳未満年齢調整死亡率」で、国立がん研究センターがまとめた2015年調査によると、青森県は人口10万人当たり96.9人（前年比1.1人減）と都道府県別で最も悪かったことが分かった。全国ワーストは12年連続。県は2017年度、これまでのがん対策事業に加え、大腸がん検診の未受診者に的を絞ったモデル事業に取り組む予定。また、国の動向も踏まえ、次期がん対策推進計画の策定作業を進める。</p>
(13)	<p>冬の青森紹介 タイのTV局が青森県内をロケ</p> <p>タイの民放テレビ局のスタッフらが2月22日から来県し、各地で旅番組の撮影をしている。タイからの誘客促進に取り組んでいる県が、青森県の冬の魅力を海外に発信しようと国の交付金を活用して誘致した。22日には八戸市の櫛引八幡宮を訪れ、本殿を参拝するなどした。撮影中細かい雪が降り続き、一行は日本の北国ならではの風景を楽しんでいた。その後27日まで滞在し、奥入瀬渓流や、五所川原市、大間町などを訪れた。今回撮影する番組はタイで3、4月に4回に分けて放送され、インターネットでも配信される予定。</p>
(14)	<p>八戸-遠野170キロウォーク 参加者募集</p> <p>八戸市大館地区の「新田城まつり」関係者らが、根城南部氏が国替で八戸から岩手県の遠野に渡った約170キロの道のりを歩く「八戸・遠野ウォークリレー」を企画している。今年は八戸市の市制施行88周年で、国替えから390年の節目でもあるため、市の歴史を広く市民に知ってもらおうと検討してきた。ウォークリレーは、4月29日に八戸市の「史跡根城の広場」を出発。2グループが1日約25キロずつ歩いてリレーでつなぎ、5月2日に遠野市に到着する予定。3月1日から参加者を募集する。</p>
(15)	<p>八戸工大 海洋学副コース新設へ</p> <p>八戸工業大学は24日、2018年度に工学部に海洋学の副コースを新設する構想を発表した。副コースは、学びの中心となる主コースに加えて、選択が可能なコース。海洋研究開発機構（JAMSTEC）の人材育成機能一部移転の一環で、ニーズの高まりが見込まれる海洋研究者の養成に力を入れる。海洋学副コースを開設するのは生命環境科学科と土木建築工学科で、海洋生態や海洋土木をテーマとする。同機構から派遣された職員らが講義し、他学科からの履修も可能になる。</p>
(16)	<p>飲酒運転根絶協議会発足 全市民へ意識浸透図る</p> <p>八戸市内で飲酒運転が後を絶たない現状を地域ぐるみで変えようと、20の組織・団体に構成する「飲酒運転根絶協議会」が24日、発足した。交通安全関係団体などをつくる「飲酒運転根絶プロジェクト」に、さらに飲食業やタクシー業の団体、教育機関、町内会など多分野の組織が加わり、改組した。より実効性の高い活動を展開し、全ての市民に飲酒運転根絶への意識の浸透を図りたい考えだ。</p>
(17)	<p>柿の里・是川地区PRへ 干し柿「☆MYOTAN（ほしみょうたん）」発売</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が、青森県南地方に伝わる渋柿「妙丹柿」を使った干し柿の販売を始めた。是川地区は戦前までは生産が盛んで、是川小・中の校歌にも柿が登場する。ただ、次第に生産者の減少に加え、妙丹柿の木は高さ数十メートルにもなるため、近年は収穫しない放置するケースも目立っていた。地区内の生産者4人が協力し、軒下などにつるす昔ながらの方法で製造。同館で「☆MYOTAN（ほしみょうたん）」として商品化した。かつて柿の産地だった是川地区を柿の里としてPRし、廃れつつある文化を伝えようとしている。125グラム入り150円（税込み）。3月いっぱいの販売を予定している。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p>八戸工業高生5人が短歌全国大会で入賞！</p> <p>八戸工業高校の生徒5人が、高校生らを対象にした全国規模の短歌コンクールである「現代学生百人一首」（東洋大）と「SEITO百人一首」（同志社女子大）で上位100首への入選を果たした。5人は日常の暮らしの中での感動や家族への感謝の気持ちなどを素直に詠み込み、それぞれ初めての入選。「評価されてうれしい」と一様に喜んだ。3年生の国語を担当する小山内教諭は「工業高校の日常生活の中では目に留めないようなところにも短歌づくりを通じて目を向けてほしかった。それをきちんと実行してくれた」と生徒をたたえた。</p>
(19)	<p>青森県初 八戸市公会堂で本格的な雅楽公演開催</p> <p>宮内庁式部職楽部の元楽師らでつくる雅楽団体「十二音会」（東京）による青森県初の本格的な雅楽公演が2月11日、八戸市公会堂で開かれた。公演はデーリー東北新聞社主催。十二音会の委員長が蕪嶋神社のために「蕪嶋の舞」を創作した縁などから、公演が実現した。千数百年にわたって脈々と受け継がれてきた“世界最古のオーケストラ”の極上の調べが、千人を超える観衆で満席となった会場を包み込んだ。</p>
(20)	<p>世界レベルの電子オルガンコンクール 川上さん（ウルスラ高2年）が3位！</p> <p>電子オルガンのプロを数多く輩出する世界大会「ヤマハエレクトーンコンクール」（1月29日・東京都）で、八戸市の東京堂八戸センターに通う川上天馬さん(17)=八戸聖ウルスラ学院高2年=が3位に輝いた。国内外の135人が競う中での快挙に、川上さんは「悔しさもあるが、プロという夢に近づけた。来年こそ優勝する」と満面の笑みを見せた。</p>
(21)	<p>県南地方に春を呼ぶ「八戸えんぶり」開催</p> <p>県南地方に春を呼ぶ「八戸えんぶり」が2月17～20日に開催された。八戸市本徒士町の更上閣で行われた「お庭えんぶり」では、かがり火や照明で演出された太夫たちの摺りが観客を魅了した。古くからの型とされる「ながえんぶり」の横町枳組は厳かに、烏帽子に五色の前髪がつく「どうさいえんぶり」の小中野えんぶり組は勇壮な摺りを披露した。お庭えんぶりは、明治期に建てられた雰囲気満点の更上閣で鑑賞できるとあって人気が高く、4日間各日3回の公演がほぼ完売だった。主催する八戸地方えんぶり保存振興会によると、開幕した17日からの観覧車数は24万1千人。会期が週末に重なったこともあって、前年を9千人上回った。</p>